

第3回 仙台市総合計画審議会都市の魅力部会議事録

日 時	平成22年10月25日（月） 14：00～16：00
会 場	仙台市役所 2階 第二委員会室
出席委員	阿部初子委員、石川建治委員、江成敬次郎委員、大草芳江委員、岡本あき子委員、小野田泰明委員、西大立目祥子委員、増田聡委員、間庭洋委員、宮原育子委員、柳井雅也委員 [11名]
欠席委員	大滝精一委員、菅井邦明委員、鈴木勇治委員、高野秀策委員 [4名]
報告者	北波克彦氏、南部陽菜氏
事務局	山内企画調整局長、大槻企画調整局次長、白川総合政策部参事、梅内総合計画課長、柳津総合計画課主幹、堀田青葉区役所区民部長、吉岡宮城野区役所区民部参事、阿部若林区役所区民部参事、古谷太白区役所区民部長、青柳泉区役所区民部長
議 事	1 開会 2 議事 (1) 市民参画事業の実施状況について (2) 仙台市基本構想・基本計画（中間案）の見直しの方向について (3) 区別計画について (4) その他 3 閉会
配付資料	1 市民参画事業の実施状況について 2 まちづくり市民フォーラム結果報告 3 基本構想・基本計画（中間案）に対する市民意見の概要 4 基本計画（中間案）の区別計画について 5 審議会日程（案）

1 開会

宮原育子部会長

それでは時間になりましたので、ただ今から第3回都市の魅力部会を始めます。

最初に、本日の議事録署名委員を指名させていただきます。前回は石川委員にお願いしましたので、五十音順で次の江成委員にお願いしたいので、よろしくお願いします。
よろしいでしょうか。

江成敬次郎委員

はい。

宮原育子部会長

ありがとうございます。それでは、お願いします。

続いて議事に入ります前に、定足数等の確認を行います。事務局からご報告をお願いいたします。

梅内総合計画課長

本日の出席者でございますが、現在11名の委員の方にご出席いただいておりますので、定足数を満たしていることをご報告いたします。

続きまして資料の確認をさせていただきます。お座席に、座席表、本日の次第、資料一覧、資料1～5、すべてA4一枚でございます。そして、まち歩きフィールドCafe報告資料と、第1回審議会からの資料一式のファイルを置かせていただいております。

また、事前にお送りしました資料は暫定版でございますので、本日の資料と入れ替えをお願いしたいと思います。

また、本日は議事の中に区別計画についてご審議をお願いするということにしておりますので、事務局といたしまして、各区役所から職員が出席していることをご報告いたします。

以上でございます。

2 議事

(1) 市民参画事業の実施状況について

(2) 仙台市基本構想・基本計画（中間案）の見直しの方向について

宮原育子部会長

ありがとうございました。

それでは今日の議事ですが、次第をご覧いただきまして、今日は三つのことにつきまして、お話し合いをしていきたいと思っております。

一つは、基本構想、基本計画を通じまして基調となる市民力に関して。皆様のご協力をいただきながら「まち歩きフィールドCafe」や「まちづくり市民フォーラム」を開催したわけですが、こちらの報告を受けました後に、市民力について議論できればと思っております。

それから2番目に、中間案に対します意見募集の取組の概要と、それから、これによります修正の方向性について、議論していきたいと思っております。

また、最後に中間案までに十分には議論できなかった区別計画につきまして、今日は意見交換をさせていただきたいと思っております。

議事につきましては、（１）と（２）は一緒に進めてまいります。

最初に資料1の1にあります「市民力をテーマとした取組」の報告につきまして、事務局からご説明をお願いいたします。

梅内総合計画課長

資料1をご覧ください。この間、委員の皆様の多大なご協力をいただきながら市民参画事業を進めてまいりました。先にこの1番、「市民力をテーマとした取組」について進めさせていただきます。

「（１）まち歩きフィールドCafe」でございます。８月28日土曜日、９月４日土曜日の２週にわたりまして、31名の市民の皆様、そしてファシリテーターといたしまして、本日のご出席の委員の皆様にもご協力をいただき、様々な世代の参加者が市民力が輝く現場を実際に見て、聞いて、まちづくりについて考え、発表するといったフィールドワーク型ワークショップを行ったものでございます。

本日、この参加者を代表してお二人の方に直接ご報告をしていただこうと考えております。お一人目は「グループだいこん草」の北波克彦さん、もう一人少し遅れてまいりますけれども、南部陽菜さんから発表をしていただく予定でございます。

それでは北波さんから、ご発表をお願いしたいと思います。

宮原育子部会長

どうもこんにちは。先日はありがとうございました。

北波克彦氏

では、発表させていただきます。

北波克彦と申します。

私ども「まち歩きフィールドCafe」で、だいこん草グループとして四つのポイントを歩きました。二日目の発表会のときに、私、だいこん草のオーナーとして発表するのかなと思ったんですが、柳井先生が「北波さん別働隊をつくろう」と、学生を交えて。あちらの方は社員と社長に任せて、学生のところで討議したらいいのではないかという話がありましたので、急遽^{きゅうきょ}、学生と情報交換を行いました。

私が四つのポイントを縁という形で、縁ということを学生に説明しました。この四つの中には受動的な縁の施設と能動的な縁の施設があるのではないかと。その四つの施設を仙台の中で丸い円で、縁というのはコミュニティという場合もあるかも分らないですが、それで結びつけようと思うんだけどもと学生に説明をいろいろしたんですが、学生の方から「いや、それはどうでしょうか。それより糸でつなぐ」という非常に現代的な言葉で、「つなぐ」という言葉を提案されました。糸でつなぐ、ほぐれた糸を切れた糸をつないでほしいと、これらの糸をつないで、私たちのグループでこの仙台を糸で縁としてつないでいこうではないかと。私は膝を叩いて表現したんです、これでいこうと。それを歴史の縦軸と、現代という横軸の縁という形で風土、歴史、世代間をつなぐという、そして横軸に今の四つのグループをポジションとして置いてみました。まあ、それは政宗がどういう都市の企みをしたのか分らないということから始めました。

最初の「メディアテーク」。これは非常に、定禅寺通りのケヤキの並木を前庭として、借景に蔵王連峰をいただいていて四方から見えると。非常に全国にも世界にも建物としてはいいんだけど、中の企画が余りにも受動的な縁で行っているように私は見受けました。年間を通して、リピーターという大体同じようなメンバーが、同じようなことを発表しているということです。それより自分たちの方として世界に発するような能動的な一連の計画、最低でも３年の計画を持って自分たちの縁に合うもの、歌舞伎であれば土蜘蛛のように糸を投げる、その糸に合う発表者並びに施設を利用したい人が集うという

ようにやっていけば、また違うようなものが出るのではないかと。「メディアテーク」もただのシンボルとしていくのではなくて情報をつなぐ、そしてそこで得た知識を知恵を分散化して利用する、それを各地にあるコミュニティの場所に移動していくべきであろうと思います。「メディアテーク」にはまだありますけれども、大体「メディアテーク」についてはそう思いました。

次に「あかねグループ」なんですが、私は一言、向こうへ行って「私もなりたい、あかねグループの一員に」というように表現したわけですが、優等生過ぎます。それは能動的な縁を彼らは行っているというところにあつたと思います。「出会い、ふれあい、学びあい」という非常にいいキャッチフレーズで、「高齢者地域、住民を糸でつないでいく」というように思います。私も、よくそういうところでは言うんですが「子供叱るな、来た道だもの。年寄り笑うな、行く道だもの」と。こう思ってこの施設を見ました。今後、ここに求めたいものは「老人力派遣センター」。メディアテークや卸町センター、歴史資料館等に伝統職や老人の知恵、いろいろな昔話やいろいろなものを発信する、結びつけるということです。後は「命輝く長寿社会のネットワークづくり」。これはスポーツなりそういういろいろなものもあります。老人スポーツクラブもあると思うんです。鶴ヶ谷にも支店を出そう、あるいは地域医療とタイアップしてメタボ対策弁当というものも良いのではないかと思います。

次、卸商センター「TRUNK」。ここで思ったのは、「TRUNK」は卸町の「TRUNK」なのか、「TRUNK」の卸町なのか、これが非常に疑問に思いました。卸町というのは、仙台から縁を切って新しく自分たちで縁をつくろうと。それは東北、全国、日本人というモータリゼーションの変化によって卸商業態が変わったとき。しかしながら、現在においては逆になったわけですね。しかし、残っている資産はあるわけです。45年間の景観とケヤキ並木という整然としたもの。それと彼らの、一番町から出て行ったけれども、仙台商人としての歴史やプライド等の資産というものがあるわけです。これを逆に仙台市の方に縁を結んでいく方法がないものかと。それは各地のいろいろな商店、そういうところが倉庫でつくったミュージアム等、いろいろなことが空き倉庫を使うというようなことで、いろいろな教室なり体験ツアーができるようにも思いました。やはりまだまだ考える余地があるように思います。

「壱貳参(いろは)横丁」。「壱貳参横丁」は、いわゆる受動的な縁と能動的な縁が結びついてつながっている、私は歴史と空間の横丁だと思います。それはなぜかといいますと、野中神社という、仙台に政宗が一本の杭を打ったところであり、あそこに井戸があります。その井戸は、四ツ谷用水の伏流水を含んでの歴史の流れの中の井戸であると私は解釈します。そうするといろいろなものが表現できるわけです。そこにも歴史という縦軸と横軸となる今の人たち、いろいろな出会いがある人たち、若年あるいは年寄り、いろいろな戦力になりそうな人たちが集まって、歴史の重奏というような形、まあ戦後を見つめてきた、バブルからいろいろなものを見つめてきたものが、あの中に重奏としてあるのではないかと。いろいろなお店があるのですが、魚屋さんと八百屋さんがあります。それは地元のものを使って、できれば地元の料理をあの中につくってほしい。国分町ではないものをあそこで醸し出せるのではないかとというように思いました。

時間が過ぎておりますので、これで終わりにしたいと思います。仙台を丸く円でつなぎたいと思います。以上をもって私の発表を終わります。後で質疑のときにお伺いします。以上です。

宮原育子部会長

北波さん、どうもありがとうございました。

それでは北波さんからの今のご発表で、何かご質問がありましたらお願いします。

また、当日ファシリテーターを行われた先生方もいらっしゃると思いますけれども、何かご意見ありましたらお願いします。

では、柳井先生お願いします。

柳井雅也委員

大変興味深くお話を伺わせていただきました。

縁という切り口でいろいろお話ができるということは、なるほどと思ってお話を伺いました。

私は「壱弐参横丁」を担当していましたので、そちらをちょっと引き合いに出して質問させていただきたいのですが。最後に八百屋さん、魚屋さんがあって、その食材を使った食事を横丁で提供してはという話。実は私も地産地消型商店街というのを考えておりまして。もし、壱弐参横丁でそれをやるとするならば、条件として今何が欠けているのかという辺りのご意見を少し聞かせていただけないでしょうか。

北波克彦氏

私が思うのは、今の地産地消で、現場でつくっている若い奥さん方がいるわけです。あの方たちを利用するという方法があると思います。ですが、行商じゃないですから、商店街の人たちは動けないわけですから、仕入れからいろいろとあの方たちに持って来てもらって生の話を聞くことができるんです。お魚においても全部。実は私、広瀬川の鰻や鮎なども、できれば釣った人が持って来るといようなことは、実は生産者というのか捕獲者とその店との間に入れないで直接持って来る。そうすると「語り」がまたできる。あそこの商店の人たちが素材として買うわけです。そうすると、そこにつなぎができると思います。そうするといろいろなつなぎが広がって行って、横丁はいろいろな話題がある、庶民的なレベルで仙台の情報が凝縮したところになる。国分町にない、庶民的なレベルのつなぎができるのではないかと思います。

柳井雅也委員

大変、興味深い話で参考になりました。どうもありがとうございました。

宮原育子部会長

どうもありがとうございました。

それでは、続きまして、今南部さんが見えになりましたので。

ご到着したてですみません。
早速ご報告をいただきたいと思います。

梅内総合計画課長

南部さんから資料が出ておりますので、こちらをご覧くださいだと思います。

宮原育子部会長

分かりました。
よろしいですか。
それでは、南部さん、ご発表お願いいたします。

南部陽菜氏

遅くなりましてすみませんでした。南部と申します。

私も二日間「まち歩きフィールドCafe」に参加させていただいたんですが。二日間の活動を通して、やっぱり仙台の市民力というのは、元々高い方にあるのではないかということを感じました。

実際に私もYOSAKOIまつりだったり、春の青葉まつりにも参加させていただいているのですが、それらを筆頭に市民の力で結構季節ごとにイベントがたくさん行われているというのもまち体験としても感じていたので、やはり市民力が高いのではないかという印象を持ちながらも参加させてはいただいたんですが。二日間かけて四つのフィールドを回ってみて活動自体は知っているんですけど、何か自分からは遠い存在というか、やっぱり活動が活発な分、それだけ大きな団体なのではないかなという印象があったんですが。やはり元をたどってお話などを聞いていく内に、「自分たちに出来ること」ということを基点としていたというのは、すごい私の中では発見でした。

そうなんですが、ここにも書かせていただいているんですけども、情報が余り市民に届いていないというのを感じていまして。せっかくのコミュニティがあるにもかかわらず、その宝が生かせなかったり、新しく人材を求めているけれどもその人材が入ってこないという問題もあると感じました。

次に、全体会ですが、グループぶどうが見つけた課題と出させていただいているんですが、私が参加したグループぶどうでは、音楽が得意な人、パソコンが得意な人、子育てなら手伝えるかなといった、本当に多彩なメンバーが集まっていたんですが。

「壺式参横丁」、「メディアテーク」、「あかねグループ」、「TRUNK」、この四つのフィールドの活動を通して、世代間の交流が薄れているというのを一つの問題として取り上げました。訪問したフィールドでも活発ではあるんですが、実は世代間ごとにもう既に分かれているのではないかということに気付かしまして。「あかねグループ」だったらやはり高齢の方、「メディアテーク」、「TRUNK」は若手の方、「壺式参横丁」だとちょうど働き盛りの、私からすると親世代に当たるような人たちの活動になっているのではないかなと思いました。全体会の時でも、実際に町内会の自治会長

さんをやられている方などもいて、どうしても若者の参加率が低かったり、若者目線で情報が入って来ないというような実体験もあったので、やはり、その世代間の交流というのができていないのではないかなというふうに、グループで実際に意見が出ました。

そこで私たちのグループでは自分たちにできることがたくさん集まったイベントをしましょうということで、従来の音楽だけ、子育て支援だけといったイベントでは、決まった世代だったり興味を持った人しか集まらないということで、何でもやっていいんじゃないかなということで、自分たちにできることがたくさん集まったイベントをやってもいいんじゃないかなというのが私たちのグループからの提案でした。

最後に、市民力を目覚めさせようということで、資料の裏に書かせていただきましたけれども、訪問したフィールドのような活発な活動でも、実際に情報が届いていないと感じたのは、何らかの原因があるはずで、ここを突き詰めるところまではなかなかいけなかったんですけれども、情報の発信というのはやはりとても大切なことなのではないかなと思いました。例えば、普段生活をしていて、テレビでよくある「で検索」続きはウェブで」というものを当たり前のように目にするんですけれども、こういう情報の伝達手段を利用するのは、若者だったりちょうど働いている人たちの世代が中心であって、実際にお年寄りの方だったり年齢が上がっていくと、やっぱりインターネットという媒体は適切ではないのではないかなと思いました。お年寄りの方が知りたいと思っても、受け手に環境がないということで。結局、そこで情報が閉まったりしてしまうというようなことも少なからずあると思います。

それで、たくさんのその市民力というのは、仙台にはまだまだお祭り、私がやっているようなお祭りだけではなく、もっと小さなお祭りもいっぱいあると思うんですけれども、この市民力の活動のきっかけというのは、結局、そのさっきのテレビで「で検索」という例があるように、既に入口で遮断されてしまっているという例がたくさんあると思うんです。そのきっかけをつかみやすくするという、入口の部分の環境の整備をもう少しきちんとしていく必要があるのではないかなというのが、グループの活動だったりこの全体会を通して感じました。資料にもあるのですが、すべての世代の市民の「何かやってみたい」という気持ちをきちんと実行に移してあげる、その背中を押してあげる環境づくりの整備をしていくことが必要であるというのが私の結論です。

どうもありがとうございました。

宮原育子部会長

ありがとうございました。

今、南部さんからもご報告いただいたんですけれども、皆さんからご質問、ご意見ありましたら、お願いしたいと思います。

増田さんがファシリテーターで出ていらっしゃいましたけど、今お話を伺っていかがですか。

増田聡委員

私が「あかねグループ」の担当で現場にいたわけですが、知られている人には

よく知られているグループではありますが、今回フィールドCafeに自ら手を挙げて参加するような人たちの間でも、やはり知らなかったというのがあるので、情報ギャップは存在するんだろうと思っています。

ただ、どう伝えるのかというのはかなり難しくて。例えば市民活動サポートセンターがやっている「せんだいCARE S」のような形で、行けばいろいろな情報が手に入るんですけども、なかなかそこまで自ら踏み出して行かないとというようなものもありますし。市の広報にも、たくさんのグループの紹介とかがこれまで載っていたけれども、あんまり関心がないと目の前を通り過ぎていくという感じなんで。この総合計画も含めて、何かそういう仕組みが新たにできれば。今回のまち歩きフィールドCafeに参加された方が何人が集まってきて少し具体的な、先程の「壱式参横丁」の話もありましたが、そういうものを自主的にプランニングしていくという場づくりみたいなものももう一つあるかなと思いました。このまち歩きフィールドCafeは、ワンショットで終わらないようにするにはどうしたら良いのかというのが重要な課題だと思います。

宮原育子部会長

ありがとうございました。

ほかに委員の皆様から。

では、岡本委員お願いします。

岡本あき子委員

お二方の発表、ありがとうございました。とても興味深く伺わせていただきました。

この四つのグループは、それぞれ特徴があって。仙台でもがんばっているところだなんて、こう私の立場からするとすごくがんばっているところだなと名前を聞いても思い付くんですが。仙台市中にこういうグループがどんどんできたら、もっと仙台はもっともっと魅力的で元気な自立した市民といいいますか、皆さんが自分たちのことを、自分たちでやっていくことになってくるのかなと思うんですが。この四つをご覧になって、このグループがそれぞれががんばっている根拠というのは何だろう。やっぱり人、中心になっている方の熱意とか、そういう部分で随分こう広がってきているものなのか、あるいは、それに影響を受けたメンバーの人たちがすごく盛り上がっているのか。そこら辺の秘けつというのが、仙台市のグループが全部このぐらいエネルギーなわけではないので、そこら辺がうまく伝わっていくと、もっともっと元気が出るのかなと思うのですが。そこはお二方としてはどのように感じ、それぞれのグループのこういうところが、グループとしてエネルギーをもって活動しているなと思ったところを教えてください。

北波克彦氏

仙台市の都市開発とかいろいろなことで、行政側の見方は仙台駅より青葉山を見ているような、いろいろなものの考え方から来ることでね。しかし市民は「壱式参横丁」を除いては、すべて駅裏というポジションなんです。これを理解しないと、私はダメだと思うんです。先程の政宗は何を企んだかということにあってね。

駅裏において、このようなことをやろうとしているんだけど、人の目は行政の方の発表や写真、市の情報などにおいてすべて、仙台駅より青葉山へ向かって慣性的な形で、そういう政策並びに計画であるところにおいて市民力がどこにあるのか。仙台駅裏の方は仙台的台所として、仙台の都市の人たちを支えたところであるんですよね。そこにやはりそういう流れを組んだ場所でもあるという理解で。地道に私はもう全部徒歩か自転車で動いていますから、目線で全部そういうことが分かります。

ですから、できれば審議会委員の方にも私は望みたいのです。駅より西側、仙台市役所もこちらですが。そうじゃなくて、私はあえて駅裏と申しますが、駅裏の方でいかに能動的なことをやっているか、一所懸命にやっている人たちがいるんだというところを、もう少し行政側が見る。そうすることによって、いろいろなつながりというものが、私はできるんじゃないかなと思います。

南部陽菜氏

私は、ちょっと余り難しいことは分らないですけども、やっぱり活動されている方、「TRUNK」はちょっと違うかなとも感じるんですけども、やはり自分たちにできることが集まったとか、自分たちにできることをやっているという話をされていたんですけども、この自分たちにできること、やりたいことが基点となっているので、やはり必然的に自分がやっている活動に誇りが持てるというか、それがエネルギー源にもなるのではないかなと思いました。「あかねグループ」は、周りからいつも求められているというか、そういうのも大事になってくるのではないかなと思います。

宮原育子部会長

よろしいですか。

ありがとうございました。

今日はお二方お越しくださしましてありがとうございました。

それでは時間になってしまいましたので、最後に、今日ご発表いただきました北波さん、それから南部さんに拍手で感謝の意を送りたいと思います。

(拍手)

宮原育子部会長

それでは続きまして、もう一つの市民力をテーマとしました取組であります、まちづくり市民フォーラムにつきまして、事務局からご報告をお願いします。

梅内総合計画課長

資料2が市民フォーラムでございます。こちらをご覧くださいと思います。

10月10日休日にせんだいメディアテークオープンスクエアにて行いました。まちづくり事例の発表、三者の方から町内会活動、ボランティア活動、企業での市民活動といったものを発表していただき、ただ今のフィールドCafeにつきましては、松さゆりさんと

いう学生の方から結果報告をしていただいた上で、九つのテーブルに分かれまして、87人の参加者の皆さんとテーブルトークを行いました。中には各審議会委員の皆様にご出席いただきまして、中での取りまとめをお願いいたしました。そしてパネルディスカッション、コーディネーターを宮原部会長にお願いして、パネラーに本日のご出席の大草委員、小野田委員、間庭委員、ご欠席ですが大滝委員ということで、最後にパネルディスカッションを行いました。

当日、内容を詰め込み過ぎまして、事例の打合せで小野田委員をはじめとして、皆様からのご指摘を受けて、修正しながら臨んだのですけれども、内容としましては、アンケート等でもかなりよく考えることができたというような、比較的高評価をいただきまして、本当にいろいろな点でご指導いただきましてありがとうございました。

パネルディスカッションで出された意見につきまして、一枚目の表の下から、二枚目の裏に書いてございます。今まち歩きフィールドCafeで発表されたことと重なる部分がございますけれども、情報発信の問題、どのようにつながるかといった問題、二枚目でございますけれども、市民力を高めるために行政側もコスト、時間、手間を掛ける必要があって、情報活動や拠点などの整備も必要だと。企業に取り組んでいただくためにどうするかでは、企業の退職者の皆さん、これから高齢社会になってノウハウや知識を持って地域にいらっしゃる皆さんの力を生かすような仕組みづくり、そういったものを工夫していかなければいけないのではないかとというようなご意見など、たくさん貴重なご意見をいただきました。

基本構想を始め、今回、総合計画の基調を占める市民力でございますけれども、そちらについてももう少し書き込みを増やしていかないといけないということで、事務局側でも認識を新たにさせられる点が多くあったイベントだったと思ってございます。

概要は以上でございます。

宮原育子部会長

ありがとうございました。

当日ご出演やご出席いただいた委員の方からも、少しコメントをいただければと思います。

間庭部会長代行いかがでしたでしょうか。

間庭洋部会長代行

今、梅内課長がおっしゃったとおりでありました。参加した方は、すごく主体的に参加してくださったんで、よい実感を持ったなと思いますけれども、100万市民からすれば、ほんとに一部の人たちです。さっきの話ではないですけれども、もっともっと、このきっかけがあって、こういう機会が今後増えていけば、この計画策定という意味だけではなくて、増えていけば仙台の街がもっともっと良くなっていくだろうということを実感する機会になりました。

以上です。

宮原育子部会長

ありがとうございました。

それから大草委員も、かなりご活躍いただいたんですけど、いかがでしたか。

大草芳江委員

先程からも皆さんや結果発表の方からもあったとおり、やはり何か市民としては、潜在的に何かもっとこういうことをしたいという気持ちは非常にあるけれども、それが実際に形になる間に、ギャップがいろいろなところであります。そういった元々持っている、やはり何かやりたいという潜在的な気持ちをいかにその実現につなげるか。そのメッセージ、これを一つ、どういった形で実現すればいいんだろうというところが前回のフォーラムの方でも非常に議論というか、皆さんから出た意見だなと思っています。難しそうだけど、そこが重要だということを改めて思ったというのが先日のイメージです。

宮原育子部会長

ありがとうございました。

それから、ご出席いただいていた阿部委員。ご覧になっていていかがでしたか。

阿部初子委員

何かすごくいろいろな意見が出て。今、皆さんからも出ていたように、やはり、この会議というか、計画をつくるためだけではなくて、やはりこういうこともやってほしいというのが、何件か会場からも出ていまして。やはり、そういう意味で言えば、様々な力を発揮できるためのいろいろな、普通何かと「アクセス」とか書いていますけれども、そういう窓口をいろいろなところにもっと何か工夫してあれば良いというかほしいという意見がいっぱい出されていて、そこだなと、すごく皆さんの意見から学べたなと思いました。そこに元気の源があるんだろうなと思って。それをどう工夫するかが、今からにかかっているんでしょうけど。

宮原育子部会長

ありがとうございます。

それから石川委員もいらっしゃいましたよね。どうぞ、コメントをお願いします。

石川建治委員

そうですね、いくつか気付いたことがありました。

先程フィールドCafeの報告でもあったように、この間のフォーラムのときも共通した点、共通して言われたことというのは、つながるということとその情報ということ。この二つが非常に大きなキーワードとして議論の中心になったのかなという気がしています。つながるというのは、人と人はもちろんですけども、人と組織、組織と組織、様々な形の中でつながっていくということが強調されましたし、それと情報ということがやはり言われました。先程報告があったように、活動している様々な人や団体があっ

てもつながっていかない。そのところには情報がうまく伝達されていないという話がありました。一方で、フォーラムの中では、逆に情報化社会の中で余りにも情報が多すぎて、自分で取捨選択することが非常に難しくなっているということもあったので、そういった面では実は市民力というのは個々の力で成り立つのではなくて、その個々の力がつながっていくという、そのことで初めて市民力というのが発揮されるものなんだというのを非常に思いましたし、それから、その情報の整理ということでは、私たちにとって、これはもう情報の整理をするのは区役所規模で地域の情報を整理していくと、非常につながりやすいのではないかといい、確かそんな話があったと思います。

それから、当初この基本構想のときに、これまでは行政と市民というところに、行政と市民と企業というのが入ったんですね。そういった面では、これまで企業というのは、まちづくりとは一歩退いたところで経済活動をやっているという面があったかもしれないんですけども、やはりこういった状況になってくると、企業もきちんと社会に企業の力を生かしていくという立場に立たないと、なかなかこの市民力というものも生かされていかないのではないかと。

最後に一点は、宮原先生の提起を受けて、そうなんだなと思ったんですけども。様々な計画がつくられるけれども、市民の皆さんが知らないところで計画が決まり、実行されていく。じゃあ、市民の人たちが、地域の人たちがどのようにその計画にかかわっていくのかということを考えるとどうなんだろうといったときに、一方でマスコミ等でもいっぱい放送されますし、雇用の問題だったり、福祉の問題だったり、地域崩壊の問題だったりというようなことがあるということでは、市民の一人一人の日々の暮らしが当たり前で営める、いざというときには必要な行政サービスを受けられるという、そういう整備がされていないと、なかなか社会にかかわっていきこうという機運が生まれ難いのではないかといい、一方でであると思うんです。そういった面では積極的に取り組んでいる人たちと、実は取り残されてしまったと思っている、あるいは取り残された人たちがどのように社会につながりをもっていくのかというところの工夫というものは、非常にこれから検討すべき課題なんだなと思いました。

宮原育子部会長

どうもありがとうございました。

それで今、委員の先生たちからお話いただいたんですけども、こういう二つの取組をした中で、現在の中間案の市民力の部分につきまして、皆さん自身で再度気になるところ、ないしはもう少し視点を考え直したらいいのではないかなというような箇所等ありましたら、ちょっとご意見をいただきたいのですけれども。いかがでしょうか。今、石川委員もそういった観点からお話いただいていると思いますが。いかがでしょうか。

間庭洋部会長代行

それでは、私申します。

とかく、その行政などからの施策的な感覚からいうと、市民力を育てるというのを政策に位置づけるというか、それは非常に大事なことなんですけれども。この間のフォー

ラムなどを拝見しますと、市民力を発揮しやすくするのが最終的な目標であって、そのために必要なことの中に育成も入っていると思って。育成は目的ではないんだよと。市民力がより発揮しやすいような環境の中に育成も入ってくるし、さっきフィールドCafeから報告があったように、つなぐとかきっかけをつくるとか情報発信や入口を用意するとか、そういうことが必要なのであって、そのこのところは、その育成という方に流れないようにした方がいいのではないかと思います。これはこの間のフォーラムで強く感じました。

宮原育子部会長

ありがとうございます。

今のご意見いかがでしょうか。間庭委員からもご意見あったので。

では、岡本委員お願いします。

岡本あき子委員

私も全く同じ意見です。中間案の中で、学び、学ぶ機会をつくる、学ぶチャンスを与える、どうぞ学んでくださいという部分が非常にうたってあって。それはきっと一つの特徴なんですけど、仙台市として10年後を見据えて、じゃあそれでどうしたいのかというところをもう少し明確に。学んだ力を育てるのが目標じゃなくて、育った力を発揮していただき、それでまちづくりに参加していただきたいというのが、仙台市の求める姿なのではないのかなと思うので、学んだ力をこういう形で、まちづくりに皆さんが参加してもらうことを仙台市としては望んでいるんですよというメッセージをうたってはどうかと思っています。

それと10年後ということなので、10年後にやはりどういう仙台市になっているかというところが必要。やはりその市民力が発揮できて、どういう街になっているのかというのが、一つ言葉としてもあったら分かりやすいのかなと。変な話、例えば、財政の健全化であったら、財政の健全化でこういうふうには仙台市の財政をきちんとしていくんですよとか、あるいは住み良い都市ランキングで常にベスト3に入るまちを目指すんですよとか、10年後でも居続けるんですよとか、何か市民の皆さんがこの目標を持って市民力を発揮して、10年後こういう姿を目指すんだねというのが伝わった方が、計画としては分かりやすいのかなと思います。

この10年の中でやはり大きく動くのは、ここの中でも地下鉄東西線の言葉が出てくるのですが。整備をしてという話があるんですが、10年後はもう開通しているんですよ。なので、開通した後、それぞれその軸を生かしてまちがどういうふうになっていくのかというのを、もう少しいろいろな情報を集めて組み込んでいく必要があるのかなと思います。多分大きくまちが変わると。地下鉄の南北線が開通してこの20年でやはり仙台市のまちって大きく変わったと思うんですね。そういうのも含めると、特に泉があれだけ発展をして、沿線のまちがこれだけ変わったことを考えると、開通した後もこの計画は続いているという前提での表現とか、まちのイメージというのをもう少し組み込んで良いのかなと思っています。

それ以外にも、地下鉄だけじゃなくて、うれしいことにあすと長町にも大きな拠点ができる構想が一つ見えてきたものがあるので、やはり10年後の動きをふまえて盛り込めるものは盛り込んで、まちのイメージが作りやすいように取り込んでいってはどうかと思っています。

後、全体的に気になるのは、先程の力を発揮していただきたいというのもそうなんです。仙台市がやってあげると全体でとらえられるとちょっと誤解を招くかなと。皆さんが参加をするんだ、それには老若男女、この間も発言させていただいたんですが、子供もみんながはぐくんであげるだけではなくて、子供にも能力を発揮してもらいたい、まちづくりに参加してもらいたい、学生さんにも。もちろん学生さんの部分は入っているんですが、子供も守り育てるだけではなくて子供の能力でできることはどんどん参画を、あなたたちが主役ですよということもうたってもいいのかなと思っています。

少しこの機会に、いろいろな方からもご意見いただいた中で、私だけの意見ではないのですが、伝えさせていただきました。

宮原育子部会長

ありがとうございました。

ほかにいかかでしょうか。

西大立目委員お願いします。

西大立目祥子委員

この間ちょっと時間があつたので、読み直したりもしていたんですけれども。市民力というのをどう定義するのかというのが、ここの書き出しのところではちょっと希薄かなという気がしています。

1ページ目に「仙台の未来へ」とあって「仙台の未来を創る市民力」が二つ目に出てくるんですけれども、その上位に市民力が上がってくるのは私はとても良いと思うんですが、なぜこれだけ市民力を大切だと考えるのか。それでこれから10年の計画であるんですけれども、一応21世紀中葉ぐらいまでを目指すことを考えると、その市民力を育成してどのぐらいのものにしていきたいと考えるのか。後から出てくると思うんですけれども、例えばその市民意見の概要のところ「住民自治」という言葉が出てきているんですけれども、そのぐらいまでのことができるような地域力、市民力をはぐくむために今スタートさせるのか、何かその辺のところちょっとあいまいなのかなという気がします。

今見つけられなかったんですけれども、市民力の定義が確か一行か二行か出てくるんですが、それが割と後ろの方にあつて。これはもうちょっと前にあつて、もっときちんと、何か分かる形で提示した方が良くないかなと思いました。

宮原育子部会長

ありがとうございます。

柳井委員。

柳井雅也委員

市民力に関してなんですけれども、三つの仕方っていうんですかね。この間、市民力について皆さん議論されてきました。

西大立目委員の意見で定義とあったんですが。それと、もう少し内容を豊かにしていくということで考えていくと、三つの仕方のうち、一つは参加の仕方をどうするのか。やりたいけどやれないという人がいるって話が随分出てきていますので、じゃあどうしたらいいのか。

もう一つは、そういった組織を維持していく力をどうするか。それはリーダーの育成も含めてなんですけれども、そういったものをどう維持していくのか。

三つ目は、参加した人たちがエントランスをしっかりとて、力の発揮の仕方をどうするのか。例えば経済の世界でいうと、コーディネーターの人たちが、今までだとプラットフォームという一箇所に集めているんです。そこに相談に来なさいというやり方なんです。最近は分散、空間的に分散配置をして、例えば、ある人は銀行に行くし、ある人はコンサルに行くし、ある人は会計事務所に行く。こういういろいろなところに拠点、拠点を街中につくっていくんです。一度見てくださって、ふらっと行ったらそこにきちんと情報が有って、こういった市民力の研さんがクラスターに、参加にすぐつながっていけるような、そういう何か組織体制というのをちゃんと、ああいうプラットフォームづくりをちゃんとつくっておかないと、単に市民力というのをうたって、どうすればいいんだっけという話になってくるんです。だから、市民力に関してその議論が意外と、何かこの間審議をしていて、何か抜けていたのではないかという感じがするわけなんです。

宮原育子部会長

ありがとうございました。

やっぱりフォーラムをやってみて、皆さんの市民力に対するイメージとか、それからそれを発揮するにはどうしたら良いかというところに、かなりいろいろと考えが及んでいると思うので、今日また、ご意見をいろいろいただいた中で、是非明らかにすべきこととか、盛り込んでいかなきゃいけないことは入れていただければと思います。

それで今日、まだいくつか議論を進めなければいけないんですが。ほかに何か、特にお話ごさいますでしょうか。よろしいでしょうか。ちょっと次にいきたいと思います。

次は、中間案に対する意見募集の取組について、事務局からご報告をお願いしたいと思います。

梅内総合計画課長

それでは資料1と資料3になりますので、並べてご覧いただければと思います。

資料1の2、下半分のところなんですけれども、意見募集をこの間行っておりまして、金曜日時点でまとまっている意見募集の概要、意見数でございます。

パブリックコメント。こちら10月20日までということで行いましたが、こちらは若干

期待よりも数が伸びなかったと反省しておりますが、40人・団体から147件にわたる提案がございました。

各界各層・有識者調査。こちら465人・団体に対して送付を差し上げまして、72人・団体からご回答がありました。こちら263件ということですが、こちらはかなり専門的な立場からの膨大な回答等が含まれておりますので、そちらについては、今分析も行っておりますが、全体にわたる有意義なご意見を多くいただけたなと思っております。

3番目、今行っております区民意見交換会でございます。9月から10月の初旬にかけてまして5区で1か所ずつ行いました。こちらは夜間行っただんですが、こちらは参加者が20名程度から30名程度ということでしたし、ご意見がなかなか出ない会場もありまして、ちょっと低調だったかなと思っておりますが、土曜日から2週目が始まっております。土曜日、泉区と青葉区で行いまして、こちら議会終了ということで奥山市長も出席いたしまして、ご意見を交換させていただきました。こちらの方は50名程度、各会場でのご出席をいただきまして、時間をかなりオーバーして意見をいただきました。こちらの方、資料3にまとまっておりませんが、例えば泉区で言いますと、古い団地で日常買物をする商店の消滅ですとか、日常の足の確保への心配、現時点ではまだ大丈夫だけれども、これから10年という中でかなり地域で高齢化して、対応が難しくなってくる地域が泉区のようなところでも出ているといったようなご意見がございました。

青葉区では、財政計画がついてないのではないかというご意見が2～3ありました。こちらについては私どもの課題なんですけれども、なかなか民間のようなバランスシート等でお示しすると市の場合、道路をはじめかなり資産が多くなっておりまして、財政が苦しい苦しいと言うけれども、バランスシートにすると資産が出てしまいますので、毎年の苦しさというのが民間ベースの会計で示したときにうまく表せないという課題があるのかなと思っております。どちらかと言うと、公会計についてはそういう特殊性がありまして、毎日のフローをどう表していくかというのが、市民の方になかなかお知らせするのは難しいですし、この計画をつくる上でも難しいと思っております。

資料3でございます。こちらパブリックコメントと有識者意見につきまして、今取りまとめ中ということで、今日に向けまして便宜的に整理したものでございます。項目ごとに整理してございますけれども、中間案全体のところで基本構想と基本計画のつながりですとか、関係性が分かりにくいのではないかという意見がございます。

基本計画の総論の部分のご意見でも、総論の記載内容が薄いのではないかとか、時代認識や課題などをしっかり書き込むことによって重点を特化したり、全体の関係性が分かりやすくなるのではないかというようなご意見をいただいております。この部分、今作業として内部で書き込みをしているところでございます。

また、基本構想では市民力、ただ今ご議論いただきましたけれども、やはりまち歩きフィールドCafe、あるいは市民フォーラムで意見が出たものと同様のご意見を多くいただいております。市民力を強調するのはいいことだがどうもっていききたいのか、なぜ市民力が必要なのかをしっかりと書かないと市民に伝わらないのではないかといったご意見でございます。

四つの都市像につきましては、昔からの仙台のDNAのような都市像でございますので、おおむね肯定的な評価をいただいているかと思えます。こちらについても表現の見直し等をどうするかということを考えていると思っております。

重点的な取り組みにつきましては、学びの部分。学びを重視するのはおおむね肯定的なご意見が多かったと思いますが、これを市民力で支え合い、またまちの活力づくりにつなげるといった視点とか、そういう論理性みたいなものがまだ足りないのではないかというご意見があるのかなと思っております。

都市のデザインですと、一つ目の項目にありますような市街地の拡大を抑制し、機能集約すべきだというようなご意見。あるいは、先程泉区の部分で申し上げましたが、一番の下項目に都市軸から外れてしまった地域の利便性についての配慮が必要だという、ある意味反対側のご意見というか、両方からの幅広いご意見をいただいております。泉区でのご意見もございましたけれども、こういった地域にどのように対応していくかということも計画の大きな課題だと認識しているところでございます。

賑わい・活力づくりのところでは、やはり低成長時代ですので、活力づくりをしっかりとやってほしいというご意見が中心でございますが、懇談会等では東北と仙台の関係性について記載がやや薄いのではないかという意見をいただいております。

経営方針の地域政策のところでは地域での課題を自ら考えるということは住民自治という視点からも重要で、市民力を強調していることと合わせてどのようにつくっていくかということを経営横断的に取り組むべきだというようなご意見をいただいております。

裏面に移りまして、新しい市民協働のあり方というところでございます。市民力と市役所の役割分担をしっかりと、自治の原点である市民力を育成すべきである、また、市民力の育成や連携に対して、コストがかかることを意識して、一定のコストをかけるべきであるというようなご意見をいただいております。

市役所の自己改革のところ、財政の健全化ですとか先程のような財政計画、あるいは選択と集中、優先順位をどうするかということをも市民に分かりやすく発信してほしいというようなご意見を多くいただいております。

分野別計画になりますと、個別のご意見が多くなってまいります。地震をはじめとする災害対策等の重視、高齢者対策、子育ての充実など、様々なご意見をいただいているところでございます。区別計画につきましては、今回は各区の方が担当ということで内容の充実を図りましたけれども、そのことについては非常に肯定的なご意見を多くいただいております。ただし、区ごとの表現がやはり独自のものとなっておりますので、一定の統一をすべきではないかといったようなご意見もいただいております。

最後の部分、推進では目標管理、分かりやすい目標の設定、評価の仕組みをしっかりとつくってほしいといったようなご意見をいただいております。

以上、分類したものでございまして、次の審議会等で詳細の部分を出してまいりたいと考えております。以上でございます。

宮原育子部会長

ありがとうございました。

今、こちらの市民意見の概要については、その中で概要をピックアップされたということによろしいですね。

梅内総合計画課長

はい。

宮原育子部会長

ありがとうございます。

それではちょっとこれから30分ぐらい、この資料3に基づいて、皆さんと意見交換をしていきたいと思っております。全体の最初から後ろの方まで、各項目でもこういったご意見をいただいていること、後全体の流れにつきましてもご意見をいただいております。改めてまた委員の皆さんの方から、ご意見ありましたらお願いしたいと思います。

いかがでしょうか。どの部分でも結構です。

どうぞ。

石川建治委員

各区の意見交換会、第1回目は全部の会場に行って、話を聞いてみたんですけども。いろいろな建設的な意見は出されましたけれども、ただ残念ながらその参加者が、特に第1回目は少なかったですね、平日の夜ということもあって。中には会場から、残念ながら意見が出なかったところもありまして。そういった面では、今回の2回目の区別の意見交換会は少し力を入れて、意見交換できるような努力をする必要があるのかなと思いました。

各区を回って思ったのは、参加している方々が町内会長とか様々な各地域で取組を進めている方が多かったので、非常に現実的な問題をどのようにクリアしていくのかという、いわば10年後を目指してこう、10年後にあるべき姿はこうだよと提供している一方で、その参加者からは現実に今、地域ではこういう問題が起きており、こういったものはやっぱり解決していかないと見えてこないという意見が結構あったということが一つです。

二つ目は、先程もありましたけれども、財政をどうするのか、財源をどうするのかと。10年後の仙台市はこうあるべきだということを、どんなに立派に絵を描いても、その絵を具体化する根拠がなければ、絵に描いた餅で意味がないのではないかという意見が非常にありました。そういった面では、全国的にも、総合計画をつくっているところでも、その財政のあり方について、どのように表現をして計画に反映するのかというのが非常に苦労しているところなんですけれども、仙台市としても、やはりその辺もきちんと議論しないと、きちんと整理をして分かりやすく市民に示さないと、なかなか難しいのかなというのを感じています。

まとまってませんが、また気付いたら発言させていただきますが、全部回ってみた感じはそういうことでした。

宮原育子部会長

どうもありがとうございました。区別の説明会の報告をいただきながら、ご意見いただきました。

ほかにいかがでしょうか。

小野田委員、お伺いしてよろしいですか。ご意見か、コメントを。市民意見へのコメントでも結構ですし、それからこれをご覧になって改めてこの部分でということ。

小野田泰明委員

いただいた意見はごもっともですし、今、石川委員からお話がありましたように、実際の施策を実施するときの裏付けも、きちんと取るべきだというのはそのとおりだと思います。これは皆が思っていることだと思います。

ただ、皆さんが思っているもなかなかそう動かないのが、この市のプロジェクトの何かとよくあることでございまして。それをどうやったらレグスルーできるかということを考えていたので、意見というのはなくて皆さんからいただいた意見をどうやったら実走できるのか、それが僕の最近の中心的な課題になっているので余り発言はないんですけれども。

僕は建物の設計とか計画をやらせていただいたり、最近は大学の中で制度設計みたいなこととか、建築士に関係した国交省の方々と制度設計をやらせていただいているんですが、やはり良い意見はたくさん出るんですけど、問題はそれをどうやって制度設計に反映させるかということです。それはやはり意見を言うだけではダメで、制度設計をして、制度設計をしたものを皆さんにある程度お示しして、もう一回また戻すというサイクルが多分必要です。ですので、意見は十分に反映したので、それをどう取り入れて制度設計をするか、それをもう一回フィードバックして戻したものを叩いていただくとか、そういう辺りに限られた時間をどうやって割いたら良いかというあたりについて、多分事務局で頭を悩ましているんだろうという感じでございます。

少し蛇足ですけど、やはり我々にとってはそんなに重要ではないんですけれども、基本計画というのは、やはり市の各課にとっては非常に重要な、もちろん市民にとってもすごく重要なことなんです、重要な文章でありまして、ここに一言載せてもらうか載せてもらえないかで各課の順位がすごく変わり、お互い持っている施策の重要度の順番が変わります。そうすると何が起こるかということ、うちの施策を載せてくださいみたいな、そういう行政内での交渉が非常に活発に起こりまして、実際に起こっていることと思います。

そういったものと、この意見をどうやって整合させるかという。先程前半で申し上げましたのは技術的な制度設計の問題ですけれども、お金がない中でどうやってうまく設計するか、もう少し政治的な設計の部分も恐らくあって、そこら辺をできるだけクリアに、こういう見える場所に持って来るためには、事務局を支援しながら、この審議会も言うべきことは言うという話で動くんだろうと思っています。そこら辺の見通しを事務局に、あえて意見があるとすればお聞かせください。

宮原育子部会長

では、事務局の方で。

山内企画調整局長

本当におっしゃられるとおりというか、この審議会の方のご意見、さらに市民からいただいたご意見の内容については、基本的にこのいろいろ厳しい状況の中でどうあるべきかと考えた場合には、皆、大体同じ方向に収れんするのかなと、私どもとしても受け止めております。ですから、そういういただいたご意見を十分踏まえて、本当に10年の計画ということで具体の施策をどう展開していくかということだと思いますので、その辺の内部的な調整作業は今急いで進めております。

市民力についてのご意見も先程来ございましたけれども、やはり財政の整合というご指摘もいろいろな場面でいただいております。ですから、財政の面でいけば、健全な財政運営をするというのが基本目標でございます。そのための課題として、こういった施策とかということと、市民力を基本にして皆さんの知恵を結集して、よいまちづくりを進めていくということ。基本的にはそういう中で、この厳しい時代を乗り越えていくというスタンスは皆さんと共通認識だと思いますので、それを重点的にどういうものに位置づけて、そしてその施策を具体的にどうするかというところの作業を、小野田委員のご指摘があったように、いろいろまたご提案もいただきながら、やれること、やれないことを十分に見極めながら、努力していきたいと思います。

宮原育子部会長

ありがとうございました。

では、増田委員。

増田聡委員

パブリックコメントを40人から話を聞いて、レスポンスがあったんですけども、具体的にそれにどう対応したのかということについては、一応、回答責任はあるんだろうと思っております。

先程も市民力について、この資料3でみますと、市民力の強調は好ましいという議論がある一方で、市民力とは何だかよく分からないという議論がありますし、都市のデザインのところも集約して成長抑制型に切り替えるべきだという議論があって、一方で、でもそれに取り残された地域の利便性の向上も大切という話があって。これはどちらも正論なわけです。

ただ、財政的に制約があってどうするかというのが、今はまだ決められないということだと思うんですけども。基本的には、こういう問題が総合計画を今つくっている中で課題として残っているということについては、パブリックコメントを受け取った側としてまだ解決し切れていませんということを素直に出すしか、今の段階ではないと思います。都市計画マスタープランでもいろいろこの議論もしないといけないんですけども。それぞれの基本計画なり、この下の分野別計画のところで悩んでいる。それで結論が出

し切れていないというところもあるので、それはそういうものとしてパブリックコメントに意見を返すということをまずやって、その中でこの基本計画の中に選択をして、それをどういう体制で解決していくべきかという枠をつくり一歩踏み出すというのが、この総合計画ではないかなと個人的には思っているの、そういうことをやりだしますと書くのが一番重要だと。

宮原育子部会長

まず、パブリックコメントに対してのお返事ということ。市民の方へのお返事を先に。

増田聡委員

多分一つ一つ全部答えるのは難しいと思うんですけども。この論点について、こういう意見とこういう意見があって、おおむね合意ができている部分と、残念ながらまだいろいろな、対立とまでは言いませんが、力点の置き方が違う部分がまだあるということだと。

宮原育子部会長

そういった形でのお返事の仕方といいますか、何かしら皆さんへオープンにするということは、考えていらっしゃるわけですね。

梅内総合計画課長

パブリックコメント及び区民意見交換会をはじめ、各種のご意見につきましては、12月中に総合計画にどう反映するかという方向性をお知らせしますと申し上げてまとめたものでございます。来月末になるかと思いますが、その内容につきましても審議会にもご報告して、ご意見をいただきながら修正を加えて12月に公表できればと思っていますところでございます。

宮原育子部会長

分かりました。ありがとうございます。

江成委員、いかがでしょうか。

江成敬次郎委員

今までの議論で言ったかと思うんですけど、今ありました方向性の違いということで、例えば、今出てきた事例で都市機能を集約するということと、それから都市軸上にない地域の利用者の利便性の向上も大切ということなんですけど、これは私は基本的には両方やらざるを得ないと思います。後は時間軸をどうとらえるかということによって、考え方というか、時間軸は違うでしょうと。将来という長いスパンで考えれば都市軸を集約するということだけでも、現実そこに暮らしている人たちがいる限りはやっぱりそれはやらざるを得ない。けれども、それをずっと長い将来にわたってやる話ではないで

しょう。そういうスタンスを入れることも必要なのではないかなという気がいたしました。

それと、ちょっと質問です。いろいろ集約されてやったんだと思いますので、もし集約して中身があるのであれば教えていただきたいんですが。同じ都市のデザインの中で都市空間構造の仙台らしさを充実・深化すべきというご意見があったということで、この仙台らしさということについて何か具体的な提案というか、考え方があったのかどうか。

梅内総合計画課長

特にこういったところが仙台らしいと思うのでそれを強化してほしいというご意見ではなかったんですが。コンパクトシティ等については多くの市で言われている中で、仙台は単核型ではなくて、ある程度都市軸とか面的なコンパクトということを目指しておりますが、そういったところの違いとか杜の都といったような特性とか、こういったものを生かせという意味なのかなという。具体的なお提案があつてのご質問、ご意見ではなかったと記憶しております。

江成敬次郎委員

前にも宮原先生からご意見があつたかと思いますが。計画自体に仙台らしさをもっと出したら良いのではないかと。京都の例を引き合いに出されたかと思うんですけども。そういう意味では、なかなかやっぱりまだ仙台らしさということについて、私自身はこの審議会での議論もなかなかうまく深化されていないという感じがするんですが。ただ、それをやはり深化していくということも、これから10年の計画の中で取り組むべき課題なのかなとも思っております。

宮原育子部会長

ありがとうございました。

では柳井委員。

柳井雅也委員

今のコンパクトシティの件なんですが、21プランを見ておりますとコンパクトな都市構造という表現になっていて、コンパクトシティという言われ方はされていないのです。どうしてかなとずっといろいろ調べて考えていたんですけど、一般に言われているコンパクトシティとは、今ブームになっているぐらいなんですが、この用語なんですが、いわゆる都市軸が、バージェスの同心円地帯理論のように非常に中心にコアがあつて周辺にきれいに分散していったときに、これをコンパクトにまた中心に持ってくるというのはすごく良いと思うんですけども。例えば仙台のように、ちょっと副都心みたいなものが形成されていて、いわゆる同心円状に都市が広がっていない場合は、むしろそういった副都心みたいなところに、少しコンパクトタウンという形でいろいろな生活の拠点とか、あるいは福祉の拠点というのを集中していくと、仙台のこのあたりはもっと行政

機能をきちんと整備していくとか、それを高速交通とか地下鉄などで結んでいくという方法が僕は現実的だと思います。

これを全部仙台の中心に持ってきたら大変なことになります。まず都市像がめちゃくちゃになってしまいますし、そのところはきっと我々の方で整理して、例えば総合計画の中に我々のコンパクトな都市の考え方とか、あるいは我々の仙台の都市像の、都市構造の考え方みたいなものを入れておかないと、通常のコンパクトシティ論に巻き込まれてしまうと、仙台の良さが無くなってしまうということを僕は危ぐします。

小野田泰明委員

仙台市がやっているコンパクトシティというのは、副都心を含んでいるのではないですか。その同心円論という教科書的なものではなくて。我々実務屋にとってのコンパクトシティでは、そういうものはできないから。副都心に集めてということは現実的にはそのとおりです。青森あたりでは除雪の問題があり、除雪するエリアと除雪しないエリアで選別したいから、それをコンパクトシティという名前で切り替えてやっています。

柳井雅也委員

例えば、神戸あたりですと、コンパクトシティというのはコンパクトタウンを結んだものをコンパクトシティというとらえ方をしているんです。

小野田泰明委員

それは、それぞれ都市の専門家に運営のノウハウがあって、現行政も割とその辺はしっかりしているから。それを市民にここで語られているコンパクトシティというのはこういうものですよということを正確に伝える。伝えないと、何かすごくシンプルなモデルみたいに思われてしまうから。それはきちんと伝えた方が良いということですよ、先生。

柳井雅也委員

そうです、私の考え方はそういうことです。

だから、もしもコンパクトシティを使うんだったら、仙台だからとか、あるいは一般に言われていることと少し違うんですよということをきちんと追加して説明しておかないと。恐らく何でもかんでも全部中心に集めるような議論で、心配になってきてしまう方もいらっしゃることを危惧します。

宮原育子部会長

局長から。

山内企画調整局長

今のは都市構造、土地利用計画、グランドデザイン全体のお話でございました。それで、中間案でも、その土地利用、都市構造、交通体系の関係を示しております。今のご

指摘だと、そこも仙台らしさという部分でどう表現するのか。表現的な部分としては、いろいろと議論をいただいて、その辺をお示しいただければと思います。

ただ、その仙台らしさという部分では、都市構造、土地利用という部分は、これはやはり、長年の経過の中での自然をこう生かしていくという土地利用的なゾーニングは基本的に踏襲すべきだということがございまして、都市構造的には東西線を都市軸として、新たな都市軸としてどういう拠点形成をするかという部分と、また加えて、そういう都市軸以外の部分をどういうふうに利便性を高め、暮らしやすさを高めていくかというところは論点だと思っております。

また、交通ネットワークの部分につきましては、今年都市計画街路がどうあるべきかということと、それに合わせて地下鉄を基軸としてどういうバス路線を編成していくかと。こういう主要な論点については、基本的には委員の皆様も共通的な認識はあろうかと思しますので、それを具体的にどういう表現をしていくのかと、この辺が課題なのかなと思っております。

宮原育子部会長

ありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。今仙台らしさという話も出まして、仙台の事情を考えたその話を。

柳井雅也委員

何回も発言して申しわけないです。一つだけ少し心配なことがあって、二つかもしれないんですが。人口シミュレーションを見ていくと、泉区は急激に高齢化していくんですよね。今は若い人が多いんですけども、あっという間に高齢化の社会になってしまって、ずば抜けてこう大きくなっていくということで、老人の介護施設の問題。全国のシミュレーションですとすごく、今から20年後は何千か所か足りないなんていう悲惨なレベルです。そういったものへの対応というのは、それこそ少子高齢化社会に考えておくべきことですよ。そのとき、我々この総合計画で、僕も最初あんまり気付かなかったんですが、後からはっと気づいてずっと考えていて、そういった現実と戦えるのかなという心配はあります。

後、仙台らしさという点で言うと、もう一つは非常にマクロ的な大きな経済の動き方を前提にすると、余りにもこのオフィスの空室、供給率が高すぎるんですよ。これも仙台ではいろいろな問題につながってくるのかな、暗い仙台になっていくのかなという感じになって、ちょっと心配な感じがしています。これをこの我々の総合計画で戦えるのかなという心配はあるんですね。つまり、現実をきちんと一個一個クリアしていかないと、次の理想にはつながっていかないので。我々はどちらかというと理想の行く先の先を今設計していて、ここでもう一度足元のところを今からどう戦っていくのかというところからこの総合計画をまた落とし込んでいって、最後のまとめに入っていけないといけないのかなという感じがしました。

宮原育子部会長

ありがとうございました。

非常に基本的な部分だと思うんですけども、いかがでしょうか。後ほかに。

小野田泰明委員

柳井先生からせっかく意見が出たので。

宮原育子部会長

お願いします。

小野田泰明委員

実務的にまとめていく中で、少し克服しながら提示した方が良いかなと思っていたのですが、せっかくのくくりなので、私見ということでもないですけども、お話しさせていただきます。

一つには少子高齢化問題にどう地域が対応するかということですけども、その中で行政の使える資源は限られていますから、それをどうするかということがかなり大きな問題です。もう一つは都市間競争の中で仙台が適切な投資先として選んでもらえるかということです。要するに市外から金を持って来ることができるか。都市経営的には、ほかにいっぱいあるのですが、その二つはすごく大きな話です。

一番目はやはりコミュニティの核になるようなものは、市民センターか学校かというあたりで、既存資源をどうやって再活用、利活用するのかということです。供給側の論理からはかなり再編されて効率良く回ってはいらんですけども。経済的な理由から、というと怒られますが、公民館施策について仙台市は割と評価が高かったんですけど、それを市民センターに再編しましたよね。ある種の実績は上げましたが、それを次にどう見直すのか。この間の市民フォーラムでも、市民センターがきちんと機能していないのではないか、単に貸室の場所になっているのではないかと、やはり地域にいろいろなニーズを抱えている人がいるからそういう人をサポートしてほしいという意見が非常に出ました。やはりそれはきちんとすべきだし、もしかすると市民センターに人を張り付けることができないのであれば、学校のようなところとリンクせざるを得ません。学校教育にはそれなりに投資がされていますから。そうすると教育委員会は非常にしっかりした組織ですので、横串を刺すのは庁内の方でも非常に遠慮するような状況になっているんですけども、それでもやはりそれは民意であるということで、かなり強引に横串を刺していくようなアクションがこの総合計画でとれるかどうかというのが、かなり試金石だと思います。それが一番目に対する一つの仮説です。

もう一つは都市のアイデンティティということで、それは先程から先生方からご指摘されていて、その都市のアイデンティティをどうつくるのかということなんですけれども。これも今やっていることから逆算すると、要するに地下鉄南北線は都心と郊外をつなぐいわゆるモデル路線です。理想的な副都心である泉中央があって長町があるというように。これって割とどこの都市でも、そういうと泉に怒られますけど、割と似たよう

なことが起きているわけです。その一方で、東西線というのはこれと全然違うものをつないでいるわけです。港の近くから卸町があって、スタジアムがあって、仙台駅東口があって、中心市街地があって、広瀬川の非常に豊かな河川敷のところを河川敷と川を通して、私どもの大学もかすめていただいて、八木山に至ります。そうすると、仙台が持っている非常に多様なものを束ねるわけです。これをどのようにしてきちんと位置づけていくか。せっかく駅ができるのだけれども、どの駅もみんな同じで金太郎あめになってしまうのではなくて、それぞれの地域が、特に広瀬川沿いの駅は多分ほかの駅とは全然違うような駅にしないといけないでしょうし、卸町は卸町で持っているポテンシャルを、先程ご報告の中で生かしていないのではないかという話が北波さんと南部さんのご報告でありましたけれども、そういったものをもっと生かすような全然違うものにしなければいけないし。そうすると、仙台市が今抱えている駅前開発の施策を、それぞれエリアのニーズに応じたすばらしいものにするためにはどういう施策展開が必要か、というような戦略が、これも多分既存勢力というところ怒られますけれども、それを元々もっておられた部局に横串を刺していくということが多分必要で、そのバックアップに市民力という御旗を掲げたこの総合計画になると、素晴らしいことが起こるのではないかと思います。でも、私も様々な経験を重ねてきてこれがいかに難しいかというのは分かっていますので、やはりそれは少しじっくりというか、したたかにかつ戦略的にやっていかなければいけません。そういう何か敵をつくるのではなくて、その人たちも一緒に巻き込んでいかないと、物事というのは絶対成功しませんから、一緒に共に豊かになっていくウインウインをどのようにして捕まえていくのかというようなあたりを、次回いくつか叩き台が出てきて、それについて創造的な、建設的な議論が出せるようになると、何かいけるのではないかと思います。次回あたりの審議会が何か勝負になってくるのではないのでしょうか。

いかがですか。増田先生、都市経営について。

増田聡委員

そうとう難しい問題が。良い例かどうか良く分かりませんが。地下鉄東西線は個人的にはややオーバースペックでつくってしまったとは思いますが、でもつくるという決定を市民全体でやったということだし、そうなっているわけですね、選挙も含めて。ですが、反対運動をやられていたいくつかのグループの人たちの方もまとめたりもしていますけれども。ただ、あのグループを切ってしまうのは極めて悲しい。彼らはきちんと街をどうしようかと考えていたわけですね。だから、これだけ直面している赤字の原因であるという問題についても、それを無くすような使い方は何があるのかというところに、もうそろそろ話を持っていかないと議論が先に進まないと思うんです。ですからLRTを主としていたグループにも、この次の展開として、いくつかのコミュニティサイクルの実験とか、100円パッ区の拡大とかいろいろな議論があると思うので、先程あった横に通す軸を使う方策はどうするのかとか、もっと乗ってもらうにはどうしたらいいのかというのと、コンパクトシティの自家用車の問題、環境の問題も含めて、そういうふうには持っていけないと、なかなか黒字は大変だなということです。ですので、いくつ

か具体的な大きなテーマも含めて、市民力というのがいろいろな人たちに参加していただいて、意見を交換する場を立ち上げて、その中でうまく盛り上がるのかどうか難しいところがありますが、そういうものを、難しいけど市民力の枠組みをつくるというのが一つ大きなチャレンジだと思います。

後、例えばいくつかコミュニティビジョンがつくられて、学校と市民センターと、いくつかのところを再編しようという話になっています。それを受けて、人づくりも始まっていますし、彼らがそれぞれの部分の市民力のキープレイヤーになるんだと思いますし、個人的に関係しているもので言えば、次期防災コーディネーターの養成講座というのも来年からスタートするというようなこともありますので、一応その仕掛けはいくつかのところに仕込みつつあるわけで。でも、さっき言った、それを地域でもう一回、いろいろな人がいろいろなことをやっていますということをつなぐ仕組みが重要なのではないかと思います。

まだ、あんまり自分の中ではよくまとまっておりません。感想です。

宮原育子部会長

ありがとうございました。

石川委員。

石川建治委員

すみません、考え方とか分かりませんが。一つ事務局に確認したいのですが。実は先程来からの議論の中で副都心という言葉が出ていますが、今度の基本計画の中には広域拠点というふうに文言が変わっているんですね。その副都心と広域拠点という違いを改めてまず一点お聞きしたいと思います。

と言いますのも、これもまた区別意見交換会の中で出されたわけではなくて、終わってからとかその前段で話がなされていたのは、例えば泉区の方からすると、副都心から広域拠点に変わったということになると、非常に不安だと。今までは副都心という言葉から都心、北部の都心機能を持つものとイメージをしてきたから、きちんとした都市づくり、まちづくりが進むだろうと。ただ残念ながら広域拠点と置き換えられてしまうと、単なる仙台の北部の地域をつなぐという結節機能だけが残って、いわば富谷とかあちらの方から来て、でも街中に行ってしまうのでそれだけで終わってしまいかねないのではないかと。なお更、その泉中央の大型スーパーが撤退をするといった話も出てまして、それ以降のその方向性もまだなかなか見いだせないでいるということや、あるいは土日になるととんでもない渋滞があって。結果として泉区の住民が車で家族で買物に行くときに、わざわざ渋滞になるその泉中央を目指さないで結局郊外的大型店舗に買物に行ってしまうといったことがあって、改めて泉中央地域の再生って言いますか、そういったものをどうするのかといったことを非常に不安に思っているということがあるわけです。そういうのが二点目ですね。

三点目は、確かにおっしゃるとおり高齢化が一気に泉区は進むんですね。そのことと、一方で、例えばセントラル自動車の方々が宮城に来て、その7割の方が、仙台に住

みたいと。その仙台の泉区、例えば宮城の泉区というふうになると、新たに数千人単位の市民、住民が泉区に誕生するわけですね。そうすると、これからその泉区の経済活動に対しても大きな影響力を持つことになるので、その辺も含めての少子高齢化への対応ということが求められていくだろうと思うんですね。その辺もしっかり見据えないといけないと思うんです。

それから区別計画について、各区でいろいろご意見いただいているんですが、感想としては、まだまだ区役所が中心となってまとめた区別計画であって、確かに区役所には膨大な区内の情報が集約されますからそれに基づいて、そして住民との意見交換も職員の方が一所懸命にやっていますから間違いなくそういったものは集約されていて、そこからその積み上げていくということになるでしょうけれども、ただ一方で、さてこういった素案をつくりました、皆さんどうですかと言ったときに、先程言ったような各地域の歴々の方が来て、いくつかの意見を言ってこれでまとめましょうでいいのかどうか。区別計画をつくるときの作り方がそれで良いのかということ、もう少し考えた方が良いのかなという気はするんですね。区別計画をつくるのであれば、区ごとにもう少し、その地域をいくつかのブロックとかに分けて、聴いていく手法もあって良いのかなという気はしておりました。

宮原育子部会長

ありがとうございました。

今のご質問の方、副都心とその広域の拠点ということなんですが、今お答えできますか。

梅内総合計画課長

副都心という概念でございます。仙台市の総合計画ということから言いますと、現行の前の総合計画、総合計画2000と呼んでおりましたけれども、これにおいて合併政令市になるという時代に都心のほかに、泉中央、長町、愛子地区、仙台港地区の4か所を副都心として整備して、同心円状の広範な、同心円状の都市機能の適正な配置を図ることが、基本的なまちづくりの方針としてございました。

21プランをつくった平成10年でございます。平成10年ごろになりますと、バブルも崩壊してというところもありますが、やはり当時ゴルフ場問題とかが盛んになっていて、緑地の保全が非常に重要ではないかと。人口についても、将来的な伸びはある程度で止まるのではないかとということで、機能集約という方向を打ち出しながら、ある程度面的な、先程各委員の方からお話がありましたけど、仙台の場合には、都心単一ではなくて、ある程度JRや、地下鉄を意識した面的な部分での機能の集約化を図っていこうという中で、前回の21プランの中でも副都心という概念を残しつつ、泉中央と長町については広域拠点という呼び方をしております。これはやはり、泉の場合には北部工業団地まで見据えまして、富谷、大和という人口が急増しているような背後地を控えた、ある種の交通結節点であり、一種の都市機能の集約地区というような意味で21プランのときから広域拠点であり、副都心である泉中央と長町という言い方をしてきて、今回その副都心

という呼び名を外そうということなのですが。やはり都心、仙台のような都心と泉のところの都市機能、泉や長町は非常に都市機能の高い地域だと思っておりますけれども、その役割はおのずと違うだろうと。また愛子とか仙台港というところも同一で、副都心というふうに四つを呼んでいたわけですが、各々の持っている特性が違いますし、そういったところでは、その4か所を同時に副都心と呼ぶというのはやはり。総合計画2000のときに目指していたものはそうだったのかもしれないのですが、やはりこの時代に、これからまた先を見据えたときに、それは違うのもう変えていいのではないかと考えまして、今回、副都心という表現は外しました。ただ、その背後地をにらんでの重要性ですとか、セントラル自動車の動き、そういったものもございます。長町で言えば、先程岡本委員からもありましたけども、念願の長町地区への大規模な集約の弾みになるだろうと期待しているものが動きだしておりますので、そういったものを活性化させる。ただし、それはやはり仙台的この駅周辺の都心部とまた違った機能なのではないかと理解して、今回は意識的に副都心という表現を外しているところでございます。

宮原育子部会長

どうでしょうか。このことについて、ちょっとだんだんあいまいになりながら都心、副都心が消えていく過程を少し見てしまったような気がしたんですけども。

増田聡委員

今のような説明は、やはり書くんだと思うんです。この都市構造の将来像は変わっているのだというのを書くしかないのではないのでしょうか。

宮原育子部会長

そうですね。

増田聡委員

副都心とは何かという定義も、実は余りはっきりしていなくて。もうサブでなくていいのではないですかという議論は逆にあるわけで。それぞれ必要なものは集めていただければ、広域拠点というのはそれなりにあるというロジックだと思うんです。なので。

石川建治委員

テレビで一時はやったサブプリミナルなんかみたいな、知らない間に変わっていく。

増田聡委員

難しいですね。

宮原育子部会長

分かりました。

では、ちょっと時間もおしておりまして、またあの続きをしたんですけれども。一応、議事の1と2をちょっと一回閉じまして、次に区別計画のところが残っておりますので、これについてまた少しご意見をいただきたいと思います。それでは、事務局から資料が出ていますので、始めにご説明をお願いいたします。

(3) 区別計画について

梅内総合計画課長

資料4でございます。もう随分議論が出ているところでございますけれども、今回区別計画を区が主体となりまして各地区のご意見等を伺いながら、将来ビジョンを掲げ、その下に圏域ごとの施策の方向性などを列記するという形で、10ページ前後、今までと比べましても、かなり充実した内容の区別計画をつくってみたいところでございます。

これにつきましては、従前から審議会の方にお断りいたしまして、区の方で主体的につくったものを中間案の方に載せさせていただいておりますが、審議会としてもご意見をいただけていないところでございますので、今、区別の意見交換会をまさにやっている最中でございますけれども、お気づきの点等あれば、本日区役所の職員も参っておりますので、ご意見を伺いまして、これから見直しをさせていただきたいと思っております。

この資料4にお示ししましたものは、今回その区別計画をつくるにあたりまして、企画調整局と各区が話し合いながら、こういった構成でつくっていかうと取りまとめた一応の骨子でございます。この内容に基づきまして本編の59ページ以下、各区の計画が載っておりますが、そちらの方をつくっているということでございます。よろしくお願いいたします。

宮原育子部会長

ありがとうございました。

区別計画の雰囲気も、既に石川委員からもいろいろ現場での意見交換のやり取りもいただいております。それから後、先程泉区についても人口減少の問題とかというご指摘も出ていたかと思っておりますけれども、この区別の計画につきまして、皆さんから改めてご意見いただければと思います。どうぞ。

小野田泰明委員

前回の審議会から大分間をおいてしまったのですが。ものの認識が違っているかもしれないけれども、前回、基本構想と基本計画はそれぞれ良いことを書いてあるんだけどうまく整合していないと。特に重点政策が真ん中に入っていてその位置づけが宙に浮いているということで、区別政策を含めて少し再構成をしますというような話を聞いたように記憶しています。これについて、もう一回その意見を入れるのかなと思いましたけれども、区のことに限っては別立てだから、それぞれの区ごとに話をしてくださいということなのではないでしょうか。

梅内総合計画課長

そういったことではございませんで、区別計画につきましても、今行っている区別の意見交換会を始めとしまして、もちろん全体の構成の見直しに合わせて書き直しをしてまいりました。一方、この区別計画自体は、一応起草委員会での基本構想の作成の様子でありますとか、基本計画の中間案をつくるものを横で見ながら、それとの整合を図りながら、資料4のような考え方で各区に記載してもらったというようなものでございますので、それを見直すにあたりまして審議会の方からこういった点にも留意してくれということがあれば、それを反映させて修正案を作成したいという意味でございます。

先程石川委員から、本来なら区別計画をつくるにあたって、今のような区別意見交換会等をもっと地域ごとにして、それを集約できて区別計画になったら良かったというようなご意見がありました。内部でも、そういった意見はあるところなのですが、なかなかこれからというわけにもいかないというのも、一方でございます。

内部で話しておりますのは、今回総合計画ができて、きめ細かい地域政策等の重点的な経営方針を掲げております。そういったものを展開する際に、やはり今回、正に区を中心にやっております、区別の意見交換会ですとか、そういったものを地域ごとに開催することが重要なのかな、計画に基づいてそういうことをやっていくことが重要なのかなと思ってございます。今日発表がございました、まち歩きフィールドCafe、市民フォーラムでもこういったものを総合計画の中で全市でやって、そこで参加してみて非常に良かったので、もっと地域でやってほしいというようなご意見があったかと思えますけれども、そういったことを、先程ございましたが、市民センターとか学校とかを会場にしながらどうやっていくかというのも、小野田委員からご指摘ありましたけれども、これからの市民参画を進める仕組みという意味では、今回の総合計画をつくるための意見交換会とか市民フォーラムというイベントの手法で非常に勉強になった部分がございますので、それを地域の方でどうやっていくかということも考えなければいけないなと思っておりますし、そういった点でご意見があれば伺いまして、修正に生かしたいと思っております。

宮原育子部会長

ありがとうございます。

じゃあ、柳井先生。

柳井雅也委員

よろしいですか。私も学問の世界でやっている議論なんですけど、形式地域と実質地域という言い方をよくするんですが。実は自治体とかは形式地域なんですね。線を引いて地域を区切るものですから。その一方で、実質地域というのは経済地域とかですね。例えば花が咲いている地域などは簡単に行政区域を乗り越えますよね。その自然条件であるとか経済機能とかというのは、いわゆる自治体の区切りとは一致しない場合が多いんですよ。

一番心配なのは、そういった区ごとの計画が出てきたときに、そういう懸案のような

もののすり合わせをどこで調整するのか。例えば、ここまでは街灯が付くけれども、道路に出たら全然街灯が繋がってなくて、地域全体として考えれば非常に犯罪の防衛力の弱い町内会であるということもありえますよね。僕らこれだけ横串の議論をやってきて、今度区の方の話が入って来たら、もう一つそれをツールとして、やはりそのいくつかの懸案とか重要度があることについては、そのこのところのすり合わせをするような計画を練っておく必要があると思うんですね。具体的にもう少し精査しないと分からないのですが、恐らくこの立て方だとそういう問題が今後出てくる可能性があると思います。

宮原育子部会長

ありがとうございます。

どうでしょうか。私もちょっと思っていたのは、やっぱり仙台市の奥の方は森林とか山脈に沿ったところがあって、それが太白と青葉と泉と三つの区ぐらいに分かれて、そういう中で個々の場所のいろいろな議論をしていることもあるんですけども、横で連携するとか、そういった横の目で見ながら地域を管理していくと言いますか、そういう目も必要なのではないかと思います。全くこう区別で分けただけで終わってしまうと、これはさっきおっしゃったように、同じようなことをお互いにやって、同じようなコストをお互いにかけてという形で、大変無駄なことになってきそうな部分もあるという感じがしました。

柳井雅也委員

設計の仕方ですね。

宮原育子部会長

はい。

ごめんなさい。西大立目委員。手を挙げていらっしゃいましたが。

西大立目祥子委員

今、柳井先生から出たことに加えて、何か市民の暮らしの現場はやはりまちの中にあるわけで、そこで潜在化していたり、顕在化している問題が市役所本庁にどういうふうフィードバックされて、それが施策に反映されていくのかというところが、やっぱり加えられてほしいなと思いました。

それと、先程から市民センターのお話が出ているんですけども、この基本構想、基本計画で学びと市民力と言っている以上は、私はやはり拠点は市民センターにあるんだと思うんですね。ただ、区別計画の中でも市民センターのとらえ方が割合に凸凹があるし、それこそ基本計画の中では、何か市民センターの位置づけが、大変低いというか、もう少しちゃんととらえ直して市民力を育成したり地域課題を解決していくための拠点としての位置づけをしていった方が良いんじゃないかなと思うんです。

20年前の仙台市の市民センターというのは、本当に全国に誇り得るようなことをやっていたわけで。ああいうものをもう一回復活というか、あのときのノウハウって一体ど

こにいつてしまったんだろうと思うんですね。なかなか現在の市民センターがうまく機能していないという意見も先程出ましたけれども。それはやはり、館長さんの資質というか、能力いかんでうまくいくような感じがします。具体的に言うと、少し前の片平市民センターですと、町内会と連携したり、大学と連携したり、市民グループ、NPOと連携したりして、本当に面白いことを次々にやっているわけで。館長さんからすると、コミュニティビジネスってことまで考えていらっしゃるんですね。

ですから、ああいうノウハウを、もう少し広く、仙台市のいろいろな区の市民センターに広められないかなと思います。多分本庁舎にいますと市民センターって何となく財団のものと思ってしまうのかもしれないんですけど。でも、市民力になり得る市民が、まず行くのは市民センターですね。その辺の考えを転換というか、私はかつてのあの仙台市の公民館時代のあの輝きというか、栄光をもう一度と思っています。

宮原育子部会長
局長どうぞ。

山内企画調整局長

区別計画のご意見ということでございますけれども。今の数点のご指摘、基本的には地域政策的な観点でのご指摘ととらえられるのではないかなと思っています。

それで、この構造的に前後関係と言いますか。どうしても重点的な部分をどうするか、そして分野別をどう充実させるか、それを区別にとらえた場合どうなるかという前後関係がございまして、なかなかその区別が、重点とか分野別を深化させていかないと、なかなか区別あるいは圏域別にどこまで拾えるかというところが、不十分なところがございました。その辺については、先程からご意見いただいている、なかなか市民センターも書き切れていないというところにもございまして、その辺も含めていろいろ充実させる必要があると思います。

後は、区を越えた圏域の特性に応じた課題が類似しているところに対して、横断的にどうするかという視点が必要だと。これも、ごもっともでございまして、このあたりは地域政策の中で十分横断的な対応というものを記述していかないといけないと思っています。市民センターの位置づけについても、地域政策、あるいは市民力の向上に向けて、どうあるべきかということを全体的に強化していく必要があると思います。それで今日は地域政策的な視点になりがちなことは十分承知なんですけれども、その区別計画をご覧いただいた中でのご意見というか印象というか、そちらの方をいただければというような感じで私ども思っておりましたので、その辺も含めてよろしくお願いしたいと思います。

宮原育子部会長
では江成委員。

江成敬次郎委員

先程、区を越えたということでちょっと気が付いたんですけれども、特に環境の問題を考える場合には、流域ごとに考えていくということが非常に重要です。ですから、それはどう取り扱うかということはまた別ですけれども、そういう視点もどこかで出てくると良いなと感じました。

区ごとの政策のことなんですが、ちょっと私もまだ十分読み込んではいないんですが、ざっと見たときに読ませていただいて、これはちょっと言葉をもて遊ぶわけではないんですが、市民力と言葉はいっぱい前段に出て来るんですが、区の区別政策にあっていわゆる区民力という言葉は全く出て来ないです。

要するに市民力を育てたり、今日の議論で市民力を育ててさらに発揮させることが重要だという話なんですけれども、一方でパネルディスカッションのご報告の中で、いろいろな情報を束ねたりつないだりするのに区のレベルでやると良いのではないかというご意見が出たという話もありました。そういったことを考えると、やはり区として市民力を育成したり発揮させるのにどうかかわるのかという視点は、もっとあって良いのではないかなということを読んで感じ、今日の議論を聞いて感じました。以上です。

宮原育子部会長

ありがとうございます。

重要な視点かと思います。

小野田泰明委員

それは、全く先生のおっしゃるとおりで、それは前の委員会でかなり議論されましたし、いろいろな先生がおっしゃいましたよね。区というのはなかなか難しいところで、区民がいて本庁があって、非常に限定された資源の中で手かせ足かせをはめられながら住民と直面しなければいけない、非常に難しいお立場ということは分かるのですが。市民力に向けて時間もなしで最後まで完結しようという、基本計画を練っているわけなので、今江成先生からいただいたような、前回も示されたようなものは、それぞれ持ち帰っていただいて今日メモが出るぐらいのスピード感でないといけません。ここに庁内の意識改革と書かれていますけれども、忙しいのもよく分かるのですが我々も暇ではなかったりするし、これだけの人が集まってこれだけの非常に優れた有識の先生方が集まっていた中で、前と同じではなくてもう既に宿題があるのだから。僕が最初に質問させていただいたのはそういう意味でした。常に市民力、今江成先生は区民力とおっしゃいました、区民力をどう各区が考えるかという宿題が出ているものだと。また、西大立目委員がおっしゃったような区の領域、柳井先生もおっしゃっていましたよね。区だけではなくて全体でもっと広い領域でかわる話があるから、それについて各区はどう思うのか。そういうものが問われていたはずなのに何かレポートが出て来ないのは、何か不思議な感じもして、そこら辺についてもまだやるべきことは多いのかなと。そういうスピード感を持って、市民力は何なのか、江成先生の言葉を借りれば区民力は何なのかということを、ここだけではなくて各区の方々も、市民というか区民を本当に前面に受け止めておられる方々にも、是非お考えいただきたいと思っています。

山内企画調整局長

今の小野田委員のご指摘については、当然そういう意識をもち、意識だけではなくて具体的な作業としてプロジェクトチームをつくって、重点的に取組テーマである地域政策、そして市民力、この辺については各区と共同でいろいろ具体の成果が上がるような、この基本計画に盛り込めるような形にするために、スピーディーな作業は進めておりますけれども、まだ今日の段階ではまだまだ市民意見の収集の過程にありまして、その経過をご説明させていただきながら、途中経過の中でご意見をいただきつつ内部作業は進めていくという同時並行でいろいろやっておりますので。その辺の資料がなかなかお手元に差し上げられないのが心苦しいところでございますが、いろいろやっております。

小野田泰明委員

すみません。

宮原育子部会長

増田委員。

増田聡委員

パンドラの箱みたいですが、区役所制度をどうするかという長年の懸念のテーマが一方であるので、また結論が出ていないと思うんですけども、区別計画を立てる第4章の最初のところとか、第5章の総合計画の推進に向けて、やっぱり区という単位をどう考えるのかということが、やはり区の将来ビジョンを持つのだとここに書くとすれば、そのビジョンをつくるのは誰で、実現するのはどういう組織を考えるのかということも少し書き込んでいかないと、プランだけできましたとなってしまう気がします。さらに第5章の総合計画の推進に向けてでも、やはりどういう体制で実現するのかというときに、市民センターにもかなり狭域の部分と、その中間の区のレベルと、全市をあげているその部分と、それぞれがどういう関係にあるのかというのがある程度書いていて、こういう課題が残っているということでもいいのかもしれませんが、それぞれの区によって地域特性が違うので一律に書けない部分も多分あったりすると思いますが、そういうことも総合計画の重要なテーマだという書き込みは、やっぱり必要かなと思いました。

宮原育子部会長

そうですね、今すごく大切なところだと思うんですね。今の議論だと、突然また区別計画が出てきてというふうになっているので、そのつなぎをしっかりと書いていかないと、流れないんだらうなっていうのは私もすごく感じたところなんですけれども。

どういたしましょう。各区の方も、今日は計画についてもう少しコメントもいただけるというつもりで、事務局もお話を出したと思うんですけども。大体、全体とか今のつなぎの部分とか、そういう話の構成の方にもいっております。特にいかがでしょうか。その各区に関してということについては。

では、岡本委員。

岡本あき子委員

どこの区にということではないのかもしれないんですが、ここ10年を見据えたときに、高齢化が急激に進み25パーセントぐらいがもう高齢者になると、各区も全体的に元気な高齢者をつくりますと方針はいろいろとうたっているんですが、実際に福祉が必要になる方も現実その地域で、特に高齢化が進んでいる地域では、もうやはりここ10年でやらなければいけない課題になるのかなと思うんですが。ちょっとそこが余り具体的に言葉としては出て来ないし、見て見ぬ振りしているのか、なるべく元気でいていただきたいなという願望なのか、ちょっとフレーズが余り見えないかな。それは全市的な取決めで中やっていきますよとお思いなのか、ちょっとそこが見えないなと思った部分です。

後、農業地域も同じテーマなんです。農業振興、地産地消あるいは農産物の6次産業化というものもあるんですが、後継者問題。農業も商業も、各区でいくと拠点となる商店街というのが地域活性化の一つの核になると思うのですが、その中での商店街の支援はするんだけど、現実、10年後も商売を続けられる人材がいるのかどうかというあたりが多分各区では深刻なテーマになっているのではないのかと思うんですが、そこら辺が特にうたわれていないというのが気になりました。

後、さっきの副都心の関連で気が付いたんですが、各区の地図には都心という表記が出て来るんですね。これはこのままで良いものだろうか。各区に地図が最後のページに載っているんですが、全市で都心とうたうと、駅周辺を中心、都心があって、後泉と長町あるいは広域拠点となっているんですが、各区はそれぞれにまた都心地域とか都心という言葉が出て来ていて、その赤丸の大きさにちょっとびっくりしているんですが。残念ながら長町と泉だけは都心がなくて小さい広域拠点という、白い目立たないマークになっていたのも、ちょっとここだけでも統一されると良いかと。都心でいていただけるなら都心でいていただいたほうが、個人的にはありがたいんですが。ちょっとフレーズを統一されたらどうかなと思っていたのと、地図の中で結果として目立たないのは仕方がないんですが、地下鉄東西線の色が全く目立っていないんですね。沿線と重なっている。南北線も東西線もなんですが、せっかく都心軸を核に据えてと言っているときに、沿線の赤斜線と一緒に、地下鉄のラインをできればくっきりされたら、趣味の問題なんですけど、そう思うんですが。各区の方が余りにも都心になって、目立っていて気になっていました。

宮原育子部会長

ありがとうございました。

いろいろご指摘。はい、梅内課長。

梅内総合計画課長

都心ですが、私どもの方で都心と呼んでおりますのは、仙台駅の周辺、東地域側も含めまして中心市街地等で指定した地域を呼んでおります。その関係でいきますと、青葉

区、若林区、宮城野区の方に一部ずつ含まれまして、青葉、若林、宮城野の方に出て来るといふ形なんですけれども。この辺の地図のつくり方をはじめ、今ちょっと全市のグラントデザインの図面等も都市計画部門のこともご相談しながらつくり方を見直しております。

都心と言ったときに、別に複数のものがあるわけではなくて、市の方で呼んでいる都心地域が三つの区にかかっているんで、泉区と太白区の地図にはっきり出てこないということなんですけれども。先程の地下鉄といったところの表し方、又はＪＲの表し方を含めて、区の方とも相談しながらちょっと地図のあり方を今見直しております。ご意見のところも踏まえながら修正していきたいと思っております。

宮原育子部会長

ありがとうございました。

そろそろ、もう時間がちょっと過ぎておりますけれども、特に区別につきまして今の時点でご意見ございますか。よろしいですか。

それでは、今日の意見交換につきましてはここまでとさせていただきます。それから最後に今日の審議を受けまして、今後の日程につきまして事務局からご説明をお願いいたします。

梅内総合計画課長

資料５に今後の日程を示しているところでございます。今回、明日の市民の暮らし部会でもご意見をいただきまして、市民意見の集約が終わりましてところで、これに対する見直しの方向と、パブリックコメント等への対応ということで審議会としての意見をまとめていくということになります。それで、この部分、非常に重要な部分でございますので、当初予定を少し前倒ししまして、お忙しいところ大変恐縮なんですけど、会長、副会長にいろいろと調整させていただきまして、11月16日の18時半から第６回審議会を開きたいと思っております。こちらの方では見直しの方向性ということで、先程小野田委員からもありましたが、もの出しをしていきたいと思っております。江成委員のご指摘のように複数、別々の意見がありまして、そこについては全くご指摘のとおりですが、時系列的な対応とか、そういったもので、両方対応していく必要があると思っておりますが、それが相反的にならないようにどうするか等の課題がございます。そういったものもご意見いただければと思っております。

11月24日の18時半を予定しておりますが、こちらの方でまた見直し案の打ち合わせをさせていただきまして、一応、それを方向性として今度は12月議会にもご説明していきたいと思っております。そして最終的には1月下旬の答申を目指しまして、そこまで一度審議会を予定してございますが、この辺は進行の具合をみながら、また皆様の日程の都合をみながら、調整をさせていただければと思っているところでございます。よろしく願いいたします。

宮原育子部会長

ありがとうございました。
今の何かご質問ありますか。

増田聡委員

すみません、日程をもう一回。

宮原育子部会長

日程をお願いします。

梅内総合計画課長

第6回審議会でございますが、11月16日18時半からで、まだご連絡を差し上げてなくて恐縮ですが、今日、明日中にご連絡を差し上げる予定でございます。

第7回審議会、同じく11月24日18時半からの予定でございます。少し間隔が狭くて恐縮なんですけど、市民意見に対応する、また、いろいろなご意見に対応する見直し案をつくっておりますので、この短い時間でやり取りをさせていただければと思っているところでございます。

宮原育子部会長

はい、日程よろしいでしょうか。ご確認いただけましたでしょうか。

(4) その他

宮原育子部会長

本日の議事は以上で終了ですが、その他で何かございますか。委員の方から。

今日いくつか「これは宿題でしたよね」というようなお言葉もいただいております、また次回のときにそのことを審議会でも確認できるような形でご用意いただければ大変助かります。最後に向かってだんだん忙しくなってきたと思いますが、是非ご協力をいただきたいと思います。

また、今日はスタートのまち歩きフィールドCafeのご発表、北波さんも南部さんも最後までありがとうございました。それから審議会の皆さんも、部会の皆さんもいろいろご意見をいただきまして、ありがとうございました。

3 閉会

宮原育子部会長

それでは以上をもちまして、本日の部会を終わらせていただきます。
どうもありがとうございました。